

「J.S.バッハバレエコンサート御礼とご報告」

今年もおかげさまでバッハコンサートが無事に終了いたしました。出演の生徒さん、ご家族の皆様大変お疲れ様でございました。ご協力頂きありがとうございました。

先生の私的ライフワークも兼ねたこのコンサートには毎回「ファン」と言ってお知らせの方々にもご覧いただいております。「発表会はなかなか観に行けないけれど、バッハコンサートだけは何とか都合をつけて観に行く」という方もいらっしゃいます。幼いころから思っていますが、こうして毎年バッハコンサートを重ねるたびに、バッハさん、よくぞこの世に生まれてきてくれた!!とかみしめてしまいます。狙っているわけではありませんがバッハさんのお誕生日は 3/31 と言われていて(ユリウス暦では 3/21)バッハコンサートがこの時期に開催できているのも勝手に感慨深く思っています。

バッハのお話は尽きないので、今回は袖から本番を観ていて感じたことをお伝えします。

ちょっと宗教的な言い回しになってしまうかもしれませんが、人間誰もが心の奥底にその人にしかない「格」を持っていて、生まれてから終日を迎えるまでどれだけその「格」を意識し駆使して生きるか…などということの日頃考えています。日々の忙しさや、取り巻く環境に翻弄され、「格」があることを忘れるなどして流されてしまいがちなのかもしれません。けれどその「格」が決まってしまうことはなく、ただ自分自身の意識が向かなくなってしまうがちな…そこで「芸術」の力が大きな助けとなってくれるのだと思っています。文化や芸術に触れてハッと我に返る…これが「感動」という現象だと思っています。自分にもこんな風に感じる力があるのだという自分自身との新たな出会いと自信。これは生きていくうえで必要不可欠なことです。芸術、文化は生きていくうえで欠かすことのできない「心のごはん」だと思っています。…では演技手としての自分との出会いについて。

ジュニア S クラスの生徒さんには常日頃から伝えていることですが、どんなに小さな子供でも舞台上に上がれば、観客に与える(伝える)ということに軸にしなければならないと思っています。そこ(舞台)は、自分を披露したり、自分が気持ちよくなるための場ではなく、観客一人一人の「格」に触れるための場でなければと。観客ひとりひとりの格に触れたとき、本質的な「楽しさ」に繋がってゆくということを伝えてきています。ちゃんとそれが伝わっているかどうかはわかりませんが、袖から見た生徒さんたちひとりひとりの表情をみていると、どんなに小さな生徒さんでも必死で何かを掴もうとしていると感じます。

クラシックバレエのような伝統芸術には動かすことのできない「基礎」と「ルール」があります。これは時間、労力、理解力をもってしか身につけません。けれど一旦身につくと、ここから派生して自分自身を築き上げるのに重要な手段となります。どんな学校に入るか?どんな職に就くか?という形の問題ではなく、どんな環境に身を置いても「格」があるので生き生きと生き抜くことが出来ると私は信じています。

舞台袖から観る生徒さんたちは、基礎とルールがまだまだ満たない中であって、必死で何かをつかもうとしている姿にもみえます。もちろん楽しそうということも出来ますが、まだまだ身につけていないものを自分自身で必死に追いかけながら踊っているように感じます。目の前でぐんぐんとおおきく成長する生徒さんひとりひとりを見ていて、日々のお稽古の重要性を改めて感じています。

バレエは「若い芸術」という言われ方をされますが、それでいて習得には十分な時間をかけなければ達成することは出来ません。まさに一回一回のお稽古の在り方が問われるものです。ただ訓練すればよいということではなく、そこには心の在り方が伴っていただければならないのです。

舞台上立つごとに心を深めてお稽古に取り組むことの重要性を、生徒さん一人一人が肌で感じてくれていると思います。今回もとても充実した舞台であったと心より感謝申し上げます。

～スタッフさんより～

- * 本番の子供達の素敵なお顔に、やはり踊りの舞台はテクニックもですが、それ以上に、お客様と繋がろうとする、にじみ出て来る何か…が大事なのだを再確認でした。舞台はお客様と同じ空間…が、第一の価値ですね。
- * 保護者の方々のお仕事の見事なこと!!楽屋撤収が舞台スタッフよりも早く終了する教室なんて他にない!!
- * サルビアホールさんより→熊谷有梨バレエクラスさんは「本当に今日施設を使ったのですか?」というくらい現状回復がお見事。使用団体の中でも優良団体です。

～ご報告～

これまで3階をピアノ教室として使用していましたがお知らせしました様に、昨年12月でピアノ教室がクローズとなりましたので2部屋あるうちの1部屋を誰でも使用できる「フリースペース」あるいは合同リハーサル時の上級生の更衣室として使用できる部屋へ。もう1室は夫(美容師)の美容室とさせて頂く事となりました。夫は現在横浜にて美容室を経営しておりますが、鶴見近辺の長年の顧客の方も多いため、こちらの美容室は不特定多数のお客様が出入りするということにはせず、完全予約制で馴染みのあるお客様限定での営業と取り決めをしました。現在の横浜の美容室と並行しての営業となりますので毎日営業することはありません。この建物はあくまでもバレエ教室が主体となりますので、バレエ教室に支障のないように十分配慮していくことには変わりはありません。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。夏ごろまでに準備を進めてまいります。安全面には充分配慮して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。